▼マブキャンパス点滴静注　［注］

【重要度】　【一般製剤名】アレムツズマブ（遺伝子組換え）　Alemtuzumab（Genetical Recombination）　【分類】抗悪性腫瘍剤［ヒト化抗 CD52 モノクローナル抗体］

【単位】▼30mg/V［1mL］

【常用量】3mg 連日から開始し，10mg 連日に増量し，30mg を週 3 回隔日投与［投与開始から 12 週まで］

■Grade3 以上の infusion rection がなければ増量可

【用法】2 時間以上かけて点滴静注

■生食または 5%ブドウ糖 100mL に希釈■premedication を行う

単独ルート，他剤と混注不可

【透析患者への投与方法】設定されていない（1）常用量（5）

【保存期 CKD 患者への投与方法】設定されていない（1）常用量（5）

【特徴】CML 細胞やリンパ球の細胞表面上に発現する CD52 を標的とするヒト化 IgG1 モノクローナル抗体．再発又は難治性の慢性リンパ性白血病に適用．

【主な副作用・毒性】血球減少，infusion reaction，感染症，腫瘍崩壊症候群，免疫障害，心障害，出血，進行性多巣性白質脳症，B 型肝炎ウイルスによる劇症肝炎，肝炎の増悪，肺炎，尿路感染，副鼻腔炎，低 Ca 血症，低 K 血症，精神障害，頭痛，めまい，頻脈，消化器症状など多数

【tmax】2～4hr（1）

【代謝】異化される（1）

【排泄】分解されて処理される（1）

【CL】30mg 投与時，初回 17mL/hr/kg から最終 2mL/hr/kg に低下（1）

【t1/2】30mg 投与時，初回 10.7hr，最終 147hr（1）

【蛋白結合率】資料なし（1）

【Vd】0.11～0.18L/kg（1）

【MW】約 150,000

【透析性】資料なし（1）除去されないと思われる（5）

【薬物動態】ミカエリス・メンテン型の消失過程を有する 2-コンパートメントモデルに適合（1）

高いトラフ濃度は高い有効率に関連（Mould DR, et al: Br J Clin Pharmacol 64: 278-91, 2007 PMID: 17506867）血中濃度の個人差は大きく，一部は病状，可溶性 CD52 などにより影響を受ける（Elter T, etal: Leuk Lymphoma 49: 2256-62, 2008 PMID: 19052972）

【O/W 係数】該当しない（1）

【相互作用】ワクチン類，免疫抑制剤と併用注意（1）

【更新日】20250524

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。